

ニュースレター

いりおもての森から

令和5年3月

No 65

仲間川の
サキシマスオウノキ

安全第一で卯のように飛躍



令和4年度のセンター業務を振り返って

令和4年度も、新型コロナウイルス感染症収束への先行きが見えない状況の中で業務をスタートすることとなりました。この様な中で今年度の業務を振り返り、大きく三点取り上げます。

一点目は、希少種等の調査です。当センターでは環境省のレッドリストで絶滅危惧種ⅠA類に指定されているタシロマメの生育調査と「森の巨人たち百選」に選定されている「仲間川のサキシマスオウノキ」モニタリング調査箇所のコードラート区域内に生育している植物の構成樹種調査を5年に1度実施しています。

両調査ともに経験者がいないことから苦慮しましたが、前回の調査資料を確認する



西表森林生態系保全センター
所長 下田 勝也



【タシロマメの胸高直径測定中】

二点目は、自然環境教育の推進です。竹富町立大原、船浦両中学校の三大行事の一つ「古見岳登山」「テドウ山登山」では、センター

とともに、コードラート区域内の構成樹種調査にあたり、植物に詳しい国営林職員OBの力添えを受け、5年後を見据えた調査を行うことが出来ました。また、今年度の新しい取り組みとして西表島島内の木本類を中心に野生植物の分布状況を図面上で把握し、植生の推移等を森林生態系の保全・保護に資する基礎データとするための野生植物調査を実施しています。



【仲間川のサキシマスオウノキのコードラートの区域内構成樹種調査中】

全職員が参加し支援を行いました。この「登山」は、郷土の自然に親しみ、郷土を知り、郷土に誇りを持つ生徒の育成、助け合う心、励まし合う心を育てることにより友情の輪を広げること等を目的とし実施されています。本番当日は、両登山共に雨模様でしたが、生徒の元気に背中を押され参加者全員無事に踏破することができました。



【ロープを伝って懸命に滝を登る
(大原中、古見岳登山)】

のの一つとして、常日頃から全職員が情報の発信を意識することに努め、各種モニタリング調査や「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産に関する会議等に出席した内容を当センターのホームページ（トピックス）へ投稿し当センターの活動内容を広くアピールすること務めました。なかなか思うような記事は書けませんでした。職員一丸となって取り組んだ結果、100件以上の情報を発信することが出来ま



【テドウ山山頂にて3年生記念撮影
(船浦中、テドウ山登山)】

最後に、この紙面で紹介できなかった多くの業務については、当センターのトピックスをご覧いただければ幸いです。令和4年度も残りわずかとなりましたが、これまで無災害、そして健康で過ごすことが出来たことに感謝するとともに、令和5年度の西表森林生態系保全センターの活動が卯（干支）のように飛躍できるように安全第一で各種業務に邁進します。

世界に向けて西表島のマングローブ林について発信

～昨年に続き独立行政法人国際協力機構（JICA） 沖縄センターの講義をオンラインで実施～



【英語によるディスカッションに戸惑いながら、通訳を通して質問に回答】

当センターは、独立行政法人国際協力機構（JICA）沖縄センターが行う研修の中の、「保護地域協働管理を通じた脆弱な沿岸・海洋生態系保全」コースの講義を受け持っています。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインによる遠隔研修となり昨年度撮影された当センターの講義ビデオを事前に研修員が受講し、11月15日（火曜日）、講師と研修員との間でディスカッションを行う形式となったとともに、研修参加国間で時差が大きいこともあり、朝（8時～9時（メキシコ、パオ））と夕方（17時～18時（コートジボワール、フィリピン、モリシヤス））の2回に分けての実施となりました。

研修には、前述の5カ国から8名（男性5名、女性



西表島の樹木いろいろは

3名）の研修員が参加しました。また、今回は講師である担当職員の他にOJTの一環として若手職員がオブザーバーとして参加しました。

ディスカッションでは、「マングローブ林の被害・損害のコストはどれくらいかかるのか」や「海洋漂着ゴミ問題」などの質問があり、着眼点の違いから回答に戸惑いましたが、漂着ゴ

ミ問題については、当センターにおいて定期的に調査していることなどを説明しました。

また、フィリピンやモリシヤスでは、マングローブが国全体で保全されている状況について報告があり、マングローブ保全への取組方もそれぞれの国で違うことを感じました。

今回もオンラインであったものの、公用語以外の言語で会話をする研修員や朝夕と通いながれた職場に飛び交う英語で通いながれた職場が、その時だけ異世界のようでした。

来年度こそは世界自然遺産になった西表島で研修が行われることを期待します。

【赤い実をつける】

アカギモドキ
海岸近くに林内でみかけます。葉には光沢があり3出複葉で葉の縁は波打っています。花は白く約3ミリと小さいものの、約5ミリの赤い実がなります。アカギモドキの名前は葉がアカギに似ていることからついたそうです。

（出典…西表島の植物誌）

矢野九州森林管理局長が当センターを巡閲

仕事は前向きに主体的に、
気持ち良く

12月6日（火曜日）から9日（金曜日）にかけて矢野九州森林管理局長及び局職員2名が沖縄森林管理署管内の現地調査及び当センター巡閲のため与那国島、西表島を訪れました。

12月6日は与那国島の不要存置林野等の現地調査を実施。翌7日は前泊竹富町長を表敬訪問され西表島へ移動し、（国研）西表熱帯林育種技術園及び環境省西表野生生物保護センターを視察され、技術園の千吉良園長から当園の業務内容の



【西表熱帯林育種技術園において千吉良園長の説明を聞く矢野局長（中央）】



【西表野生生物保護センターにおいて環境省職員の説明を聞く矢野局長（左から2人目）】

説明を受け、環境省職員からイリオモテヤマネコの生態などについて説明を受けられました。

12月8日は森の巨人たち百選に選定されている仲間川のサキシマスオウノキを確認され、大富遊歩道沿いに設定してある外来種対策（ギンネム）試験地及び9月に襲来した台風12号で崩壊した災害箇所を確認されました。



【伊藤署長から台風12号災害箇所の説明を受ける矢野局長（右奥）及び局職員】

に位置するピナイサーラの滝へ時折雨足が強くなる中、約1時間かけて滝壺に到着。ピナイサーラの滝は連日の雨で増水し、普段とは違った圧迫感があるほどの迫力がありました。

現地調査は、天候に恵まれませんでしたが、世界自然遺産の貴重な自然に触れていたかったのではないかと思います。

12月9日は矢野局長から当センターの職員に対し、「仕事は前向きに主体的に、そして気持ち良く、そのた

めには健康と安全に十分留意してもらいたい」という訓示をいただきました。

また、令和5年1月10日発行の「広報九州 特別号 暖帯林」の「令和5年度新年の御挨拶」では、「今後とも地域に根ざした存在として、貴重な森林生態系の保全に努めていく」とのお話がありました。

センター職員一同、矢野局長の言葉を胸に業務に励みます。

西表島の樹木いろは



【実が熟すと藍色になる】

アカテツ

海岸に面した平地に生育し、高さ約10mに達する高木もあれば、低木もある。葉は革質で長さ5〜9cmです。花は腋生で多数咲き、5〜9cm。花はごく淡い灰白色で実は黒色のような藍色に熟します。アカテツに似た植物でハマビワがありますがアカテツには光沢がありません。

（出典：西表島の植物誌）



【矢野局長の訓示を受けるセンター職員一同】

1つ1つの調査データの蓄積

令和4年度も各種調査を無事完了

当センターでは各種モニタリング調査をはじめ、入込調査や漂流・漂着ゴミ調査、外来種駆除試験など様々な調査を実施しています。令和4年度のモニタリング調査では、仲間川のマンガローブ林モニタリング調査、マンガローブ林立ち枯れ調査や台風被害地調査、海岸林自然再生試験モニタリング調査、船浦ニッパヤシモニタリング調査、森の巨人たち百選に選ばれている仲間川のサキシマスオウノキとウタラ川のオヒルギの調査に加え、5年に1度調査しているタシロメモニタリング調査と仲間川のサキシマスオウノキの構成樹種調査を実施。仲間川のサキシマスオウノキの構成樹種調査では国有林職員OBの力を借りながらデータを収集しました。



【仲間川マンガローブ林モニタリング調査（地盤高測定）】

和らいできたためか、昨年度よりも利用者が多いように感じました。漂流・漂着ゴミ調査では調査箇所6地点でゴミの種類と個数を記録。ペットボトルや発泡スチロールなどのプラスチック類が多く観測され、なかなか減らない海岸漂着ゴミ問題の難しさを実感しました。

外来種対策では、環境に配慮した方法でアメリカハ



【船浦ニッパヤシモニタリング調査（葉の状態を調査）】

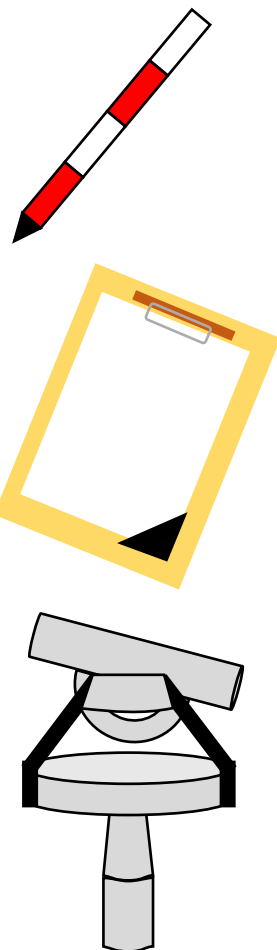
マグルマを駆除するため、アメリカハマグルマを地際まで刈り払い、食酢及び重曹の溶液を2週間に1回散布する試験を実施しました。途中散布頻度を変更したため、アメリカハマグルマが繁殖してしまいました。再度刈り払いを実施し、散布頻度を戻したところ、アメリカハマグルマは再発生せず、一定の効果が期待できることがわかりました。一方で、ギンネムの駆除試験では、幹に複数箇所穴を開けて食酢及び高濃度食塩水を注入する試験を実施しましたが、あまり枯れる気

配がみられませんでした。今までに蓄積されたデータと今回のデータを踏まえて、ギンネムの駆除に向けた取り組みを今後も実施していきます。また、今年度から新たに希少野生植物分布状況調査を開始。西表島島内の木本類を主に野生植物の分布状況を図面上で把握し、植生の推移等を今後の森林生態系の保全・保護に向けた基礎データとして活用することを目的に、島内の植物に詳しい国有林職員OBの協力をいただきながら3年間のかけで島内全域を調査する予定です。



【写真を撮って特徴を記録（希少野生植物分布状況調査）】

す。そのため、道具の選定はもとより調査の段取りを行い、調査がスムーズにできるようにすることが重要だと改めて思いました。来年度も西表島の森林生態系を保全管理するために工夫しながら各種調査に取り組んでいきたいと思えます。



自然環境教育や地元中学校行事等への支援を通じて当センターをPR

地域に根ざした国有林を目指して地域協力

令和4年度も自然環境教育や地元中学校行事の支援、希少野生動植物の密猟・盗掘等防止普及啓発活動へ積極的に参加しました。

自然環境教育では、当センターが作成し毎年西表島の小学校新入生に配布している「西表島の植物誌」に加えて、令和4年3月に完成した「西表島植物かるた」を西表島の小学生全員に配布しました。さらに、船浮



【船浮小中学校でのキノノキに関する出前授業】

小中学校でのキノノキに関する出前授業や西表小中学校の校庭に樹名板を設置。また、地元の方からお声がけいただき、NPO法人かごしま子どもと自然研究所のごしま森のようちえんの子どもたちにマングローブ林のクイズを中心とした森林教室を開催。所長の挨拶にありましたように船浦・大原両中学校の三大行事の1つ「テドウ山登山」と「古見岳登山」を支援しました。これらの活動を通じて、多くの子どもたちが西表島の自然に興味を持ってくれることを期待しています。

3年ぶりに開催された第9回西表島人（しまびとう）文化祭では、ブース出展し、当センターの活動紹介、国有林関連のパネル、クリアファイルなどを配布



【第9回西表島人（しまびとう）文化祭に出展】

し、国有林のPRに努めました。

地域活動への参加では、南風見田海岸と船浦湾で行われたビーチクリーンアップ活動に参加し、海岸に漂着したペットボトルや発泡スチロール、漁具などのゴミを回収。この活動には地元の子どもたちも参加しており、参加した子どもたちが大人になったときに、西表島の海岸漂着ゴミが減っていることを願うばかりです。

夏季（7月と8月）及び秋季（10月と11月）に環境



省、竹富町、沖縄森林管理署と共同で、希少野生動植物の密猟・盗掘等防止普及啓発活動を実施しました。夏季は西表島を訪れる観光客を対象に石垣港離島ターミナルで希少種持ち出し注意等のチラシ等を配布し、秋季は昆虫採集のシーズンとなるため、行政機関合同夜間パトロールに参加し入林者に対して、入林届の確認や安全に関する注意を呼びかけました。なお、今年度から西表財団が巡回パトロールを担っており、その巡回パトロールは、地元のネイチャーガイドさん達等が実施しています。総括会議では「西表財団がパトロールを実施していただいたことで、行政機関サイドの負担軽減になった」や「行政機関だけでなく地元の人々が参加したことが大きかった」などの声がありました。大半の入林者は所定



【パトロール場所にて待機する各行政機関の職員（希少野生動植物の秋季密猟・盗掘等防止普及啓発活動）】

の手続きを経た良識ある方達と認識していますが、過去には昆虫を採集するために洞を刃物で無残に広げられたスタジイなども発見されており、西表島の貴重な動植物を守るためにも継続した地道な普及啓発活動が大切であると思いました。今年度を振り返ると、自然環境教育をはじめ、地元中学校行事の支援や行政機関と連携した希少野生動植物の密猟・盗掘等防止普及啓発活動への参加などを通じて、国有林をPRできたと思います。当センターは来年度も地域に根ざした国有林となるべく、様々な活動などへ積極的に参加していきます。

トピック投稿数が100件を突破！

今年度も職員が一丸となつてセンター活動の情報を発信！

西表森林生態系保全センターの活動（トピックス）

- ✳ 林野庁の偽サイトにご注意ください（注意喚起）
- ✳ 【令和5年3月14日～16日】業務の始め方、繋げ方、終わり方
～山根計画保全全部長と今後の当センター業務方針についてディスカッション～ **New**
- ✳ 【令和5年3月12日】この川と この海と この空を 守りたい～南風見田海岸ビーチクリーンアップ活動に参加～ **New**
- ✳ 【令和5年3月7日】イリオモテヤマネコの保護増殖に向けて議論
～令和4年度イリオモテヤマネコ保護増殖事業検討会に出席～
- ✳ 【令和5年3月7日】数カ所の山腹小崩壊を確認～海から備船による西表島一周巡視調査を実施～
- ✳ 【令和5年3月6日】令和4年度ヒナイ川の利用状況調査（令和5年3月分）報告
- ✳ 【令和5年3月6日】漂流・漂着ゴミの状況調査を実施（3月期）
- ✳ 【令和5年2月20日】野生植物分布状況調査を実施（第4回）
- ✳ 【令和5年2月15日】特定自然観光資源の立入承認制度の運用に向けて議論
～令和4年度第2回竹富町西表島エコツーリズム推進協議会に出席～
- ✳ 【令和5年2月15日】西表島観光管理計画策定に向け議論
～奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域連絡会議令和4年度第2回西表島部会に出席～
- ✳ 【令和5年2月15日】イリオモテヤマネコをロードキルから守る～県道沿いの草刈りに参加～
- ✳ 【令和5年2月7日】令和4年度西田川の利用状況調査（令和5年2月分）報告
- ✳ 【令和5年2月6日】令和4年度ヒナイ川の利用状況調査（令和5年2月分）報告
- ✳ 【令和5年2月3日】仲間川マングローブ林台風被害地モニタリング調査（空撮）を実施
- ✳ 【令和5年1月30日】一人、一人が行動し皆で「守る」体制をつくるには
～令和4年度石西礁湖自然再生協議会第6回海域・陸域対策部会に出席～
- ✳ 【令和5年1月26日】八重山地域の生態系を守るために
～令和4年度第2回八重山地域における外来カエル類防除対策会議に出席～
- ✳ 【令和5年1月23日、24日】両センターの取り組みのさらなる充実と発展に向けて
～屋久島森林生態系保全センター職員が来島、両センターの取り組み等について意見交換～
- ✳ 【令和5年1月20日】漂流・漂着ゴミの状況調査を実施（1月期）
- ✳ 【令和5年1月16日、17日】5年後の調査に向けて～仲間川サキシマスオウノキ構成樹種の再調査を実施～
- ✳ 【令和5年1月14日】「尖閣諸島開拓の日」記念式典に出席

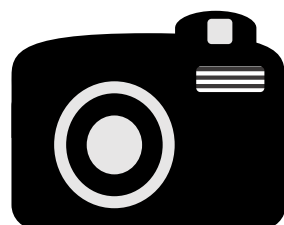
【当センターのHPに掲載しているトピックス】

当センターは今年度の重点取組事項の一つとして「情報の発信」を掲げ、当センターのホームページで活動等の情報発信に職員全員で努めました。

今年度の最初のトピックスで「69回」発信（アウトプット）の大切さ」と題し「令和4年度も、この69回（令和3年度のトピックスの投稿数）のトピックスに追いつけ、追い越せで、常に発信を意識し、センター職員全員で発信することに取り組んでいきたいと思っています」としました。その結果、令和4年度は令和5年2月末時点で100件以上のトピックスを投稿し、トピックス投稿数の記録を更新することができました。この数はとても1人でできるものではなく、センター職員全員が情報の発信を強く意識したことで、達成できたことだと思います。

トピックスを書くようになって読む人に伝わる文章を書くことの難しさを改めて実感し、自分ではわかりやすい文章が書けたと思っても、他の人が読むと、文章の意味が通っておらず、他の人に伝わらない文章だったり、出来事を時系列に羅列しただけものだったり、内容を修正することが多々ありました。まだまだ伝わりやすい文章を書くことはうまくできませんが、少しでも以前よりも読んでいただいた方に伝わる文章が書けていることを願います。また、トピックスを投稿することで、写真とキャプションの重要性にも改めて気づきました。写真はトピックスを読んでもいただいた人にその状況を分かりやすく伝える大切なもので、写真につけるキャプションは第2の見出しともいわれています。そのため、ト

ピックスに掲載する写真のに気を配り、キャプションには〇〇の“様子”や“状況”などの言葉を使わず、写真では分からない情報を補い、その場の雰囲気や伝わるように心がけました。当センターは今後もトピックスなどを通じて活動内容等を発信していきます。トピックスは、モニタリング調査、入込調査や漂流・漂着ゴミ調査など当センターが行っている調査、世界自然遺産地域連絡会議や西表島部会などの会議関係、希少野生動植物の密猟・盗掘等防止普及啓発活動や地元行事への参加、JICA研修など様々な活動を投稿していますので、是非一度ご覧いただけたら幸いです。





表紙及び裏表紙は「仲間川のサキシマスオウノキ」の地上からの写真と空撮写真です。「仲間川のサキシマスオウノキ」は仲間川上流にあるサキシマスオウノキの巨木で「森の巨人たち百選」にも選ばれています。当センターは、このサキシマスオウノキのモニタリング調査を行っています。

仲間川のサキシマスオウノキ（空撮）

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター
〒907-0004 沖縄県石垣市登野城55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL : 0980-88-0747
URL: https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/index.html

